



No. 280

2008.12.15.発行

あごら札幌 連絡先 011-644-2927 細田 今月通信担当 7/11/1, ヨシエ

《 今 月 の 内 容 》

- *「慰安婦」問題・報告会・・・・・・・・・・1,2
- *願いごとがかないますように！・・・・・・・・・・3
- *はだしのイシャだったのです・・・・・・・・・・4,5
- *本と暮らす・・・・・・・・・・6,7
- *情報・・・・・・・・・・8

通信購読料(年間)1200円 郵便振替 02710-3-570あごら札幌

札幌市議会「慰安婦」問題 意見採択 報告集会

谷 百合子

12月13日(土)18時 教育文化会館にて札幌市議会の「慰安婦」問題意見採択を受けて市民有志による集会が持たれた。緊急の集会呼びかけであったが59名の参加があった。初めに市議からの報告があり続いて上映、東海林路得子さんの講演があった。

●市議からの報告

高橋功(公明南区選出)議員から採択に至るまでの報告があった。

きっかけは同じ南区在住のkさんから議員提案の話があり各会派の議員が動いた。公明党の中央からは自民党と連立を組んでいる関係上、高橋さんにも圧力があったが地方の事に中央が口を挟むのは可笑しいと、しがらみを越えて連帯しようと決意した。11月7日市議会で採択の運びとなった。

賛否の数

民主(22名中20名賛成)	自民(21名全員反対)
公明(11名全員賛成)	共産(5名全員賛成)
市民ネット(4名全員賛成)	諸派(2名全員賛成)

自民党の中には「慰安婦はいなかった」「自ら進んで行った」と言う議員もいた。

札幌市議会の「慰安婦」問題に関する意見書から要望項目抜粋

- ① 政府は、「慰安婦」被害の事実を確認し、被害者に対し閣議決定による謝罪を行う事
 - ② 政府は、「慰安婦」問題解決のための法律を作り、被害者の名誉回復と損害賠償を行う
 - ③ 学校や社会の教育に於いて「慰安婦」問題の歴史を教え国民が歴史を継承できるようにする
- 以上地方自治法第99条の規定により意見を提出する

2008年11月7日

「姜徳景ハルモニ あなたは先頭にたって日本と闘わなければならないのに
死んでしまった」

●ビデオ上映「私達は忘れない～追悼・カンドッキョンハルモニ」(ビデオ塾)

世界から戦争を無くするには、何よりも痛みを共有し共感する感性が大切だと思う。ビデオの中のハルモニ達の声は胸に突き刺さった。「16歳で憲兵に強姦されて連行された時も意味が良く分からなかった」「恥ずかしくて何人の相手をしたのかも覚えていない」ハルモニたちは沢山の絵を描き中に思いを込めている。日の丸に対する怒りや、謝罪しない日本兵を木に縛り付けて銃口を向けている絵は激しいいきどおりが伝わってくる。「責任者を

処罰したい。その絵を描いてから死にたい」「戦後処理をしない日本は常任理事国にはなれない」「愛も去り友も去り私一人だけが寂しい。楽しかった時代が忘れられないで泣いている」「年老いた私達がいまさら何故国民基金を受け取るのか。最後の最後まで闘うべきだ」
 1999年12月29日 最後の入院の時までも姜さんは日本に行って話をすべく「私のパスポートはまだ？」と言い続け67歳で亡くなった。韓国では1992年から毎週水曜日、日本政府への抗議デモが今も続いている。

●東海林路得子さん（WAM-女達の戦争と平和資料館理事長）講演

日本の慰安婦問題に対して各国の反応の報告

米国下院 日本は1921年の性奴隷に関する条約を批准しておりこれに違反している。歴史の正しい認識を求む。次世代への教育。国際社会の勧告に従うべき。
 （安倍総理の発言を聞いて気持が悪くなったと決議に同意した議員もいた）
 全会一致で日本政府に決議を求めた

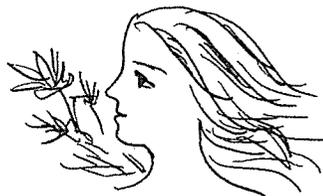
オランダ 河野談話の価値を下げるな
 補償をすべき
 学校教育で『慰安婦』問題を教えよ

カナダ 河野談話の内容を重視
 性奴隷が無かったと言う意見に反対せよ
 国会にて真摯な決議を（議員全員の賛成が必要）

EU 国連、国際社会の判断に依ること
 輪姦、屈辱、性暴力による自殺と同じく慰安婦問題は20世紀の人身売買の最大の問題である

フィリピン下院外交委員会 2005年に続く二度目の決議採択

国連 ILOなどの国際的人権擁護機構からも日本政府は繰り返し勧告指摘を受けている



日本政府は1993年の河野洋平官房長官の談話があるにも関わらず各国の決議を無視し、いまだに公式謝罪をしていない。補償もせず真相究明もせず教科書からも消し去ろうとしている。

東海林さんは札幌市議会が人権侵害の視点から意見採択に至った事が嬉しいと述べられ慰安婦のほとんどが80歳以上であることから謝罪と補償が急務であると訴えた。彼女達は半世紀以上も嘆き続けているのである。『慰安婦』にされた事を自分の落度の様に思ったり公の場にも出ず、結婚もせず、してもフラッシュバックがあり性生活のトラウマに悩んでいる。社会も原因を知らないまま汚れた女として非難している。

日本が何故謝罪しないかについて東海林さんからなるほどと思う説明を伺った。日本政府が謝罪する事は、相手から低く見られていると考えているからしない。この背景には女性が男の未熟さを支えてきた現実がある。精神的役割分担が男の精神の未成熟を増長させた。未だ後をたたない夫からの暴力を見ても、妻がこうしたから自分がそうせざるを得なかったと言い逃れをする夫が多い。日本社会は市民を自立させない。様々な差別の温床になっている。『慰安婦』問題は日本人の精神が未成熟である事の証である。哀れみの対象としてではなく共に生きるという所に立って彼女達と向き合いたい。

①加害者責任を問う②戦後責任を問う③日本人の人権感覚を問い掛ける

東海林さんはこの3点に重きを置き活動を続けたいと報告を結んだ。

●宝塚市、清瀬市の議会採択に続き堺市も採択に向けて動き出している。

札幌市の市民連絡会 ianfusapporo@yahogroups.jp

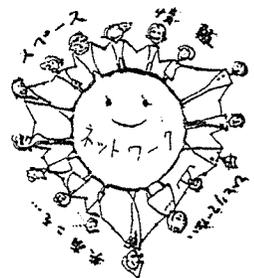
願いごとがかないますように！

K. S

サブプライムローンの延滞率急増に端を発したアメリカの住宅バブルの崩壊は、欧州なども巻き込む金融危機へと発展しアメリカ第4位の証券会社リーマン・ブラザーズは破綻しました。(もちろん破綻を免れた他の証券会社や投資銀行も満身創痍といった状況です。)現在は、金融機関のみならず巨大保険会社AIGやビッグ3(自動車産業)の経営危機にまで及んでいます。複雑な金融派生商品によるアメリカ式錬金術の化けの皮が剥がれただけでなく、需要の収縮で世界同時不況となっています。(状況は1930年代の世界大恐慌とよく似ているようです。)

日本でも派遣社員や契約社員が大量に切られ(雇い止めや解雇)、正社員の解雇や新規学卒者の内定取り消しも日々報道されています。年の瀬を前に住む家さえ追い出される派遣労働者などの非正規労働者の実情を、反貧困ネットワークの雨宮処凛さん(副代表:作家)や湯浅誠さん(事務局長)があちこちで訴えています。経営効率を追い求めた結果、非正規労働者が雇用者全体の3分の1(女性は2分の1)以上を占めるまでになり、不安定が日常になってしまいました。現在様々な支援策が講じられようとしています

が、その場しのぎの びほう策ではなく国家百年の計を考える契機としたいものです。さて、非正規労働者である私は11月中旬からダブルワークとなりました。洋服店でアルバイト(B:夕方から閉店までの数時間、週2~4回)を始めたのです。「やってみない？」と声を掛けてもらったのもひとつの縁、ありがたいことと感謝していますが、おしやれとは無縁な私ゆえ先輩諸姉に教えてもらってもなかなか戦力にはなり得ない状況です。もちろん7年目になった別の雇用先(A:1年更新、月15日)にも話を通した上でのアルバイトではありますが、生活を覆っている通奏低音のような雇用不安の音がひととき大きく聞こえる時期を迎え、雇止めの不安におののいています。Aの仕事が続けたいと願い、昨年1月~3月の間バトルが続き、組合にも援護してもらい今年4月は配置換えで何とかクビが繋がりました。年明けに就労希望調査用紙を提出すると去年以上の圧力が掛かるかもしれません。「アルバイトするくらいならどんな仕事でもいいんじゃないの。この不景気に仕事を選ぶなんて贅沢！」との意見もあるでしょうが、私はAの仕事にやりがいを感じ、努力して続けて来ました。2月末に雇い止めを告げられたとしても(訴訟提起までするかどうかはまだ決めていませんが、)3月も年休は取らずあらゆる手段を講じて希望する仕事が続けたいと考えていますので応援をお願いします。



江里子さんは はだしのイシャだったのです

その2

タカハシ ヨシエ

巡回診療で訪問する家庭はどれも貧しい家庭ばかり。竹で作られた床は選んで歩かないと、踏み外して壊してしまいそう。ダンボールが床に敷かれ、米袋が壁になっている。そんな貧しい家のまわりで、やせた犬が放し飼いにされている。いずれ食べられる運命にあるらしい。本当は犬が怖い私はヒヤヒヤ。5~6件回った後で、江里子さんに聞いてみた。「この中で、誰が1番



幸せそうでしたか？」…ちょっと考えた後、「あのケラケラ笑っていた彼女」…。私たちが訪問すると、家人が一つしかない椅子を進めてくれた。赤ちゃんが寝ていてお母さんがいない。何処にいるのかな？と見渡すと…、椅子をすすめてくれたその人が産婦でした！出血で大変なはず。しかも産後3日目なのに子宮はお臍の高さ（子宮復古不全）で「血塊が出て昨日は気分が悪くなったのよ。でも、外がゴミだらけなのは嫌なの。」と掃除している彼女。それを大笑いしながら話す彼女。深刻な状態ながら深刻にならず、まず、笑顔を浮かべる彼らには逆境を生き抜く力が具わっているのかも知れない。

2度目の巡回では、例の回虫騒ぎのあと、トライシクルで40分かかる更に奥の寒村へ。私はドライバーの後ろに乗っていたのだが（よく見る、バイクの二人乗り）雨の後でかなりの水溜りがあり、そこを避けて道の端を行くので、ブッシュがビュンビュンあたる。片手で避けていたが、「多少きり傷を負っても、バイクから落ちるよりはマシ」と、両手でしっかりつかんで乗っていた。トライシクルを降りて、目指すは川の対岸の村。コンクリートで出来た橋がいくつか壊れていた。予算はついても、完成までに「いろいろ抜かれ」て耐久性の無い橋ができすぎ壊れる、とのこと。最後に残るのは、昔ながらの「つり橋」。このつり橋を渡ると、電気が来ていない地区に入る。そこにはまさに「自然史博物館」に展示されているような家屋が点在していた。もちろん、人が住んでいる。まず、入り口にあるサリサリストア（ここら辺で1番の有力者？）へ表敬訪問。怪しまれないため？とか。そのあと、かねてから心配していた女の人のところへ。慢性疾患の彼女を診察し当面の薬を置いていく。また激しい雨が降ってきたにもかかわらず、巡回診療に来たことを知った家々から呼ばれる。「はだしの医者」は、どこでも大歓迎だ。

お産は夜間が多いようだ。私は寝ていて、1度も同行できなかった。その日、江里子さんが深夜呼び出されて向かったのは、アエタ族の家。ピナツボ火山の噴火(1991年)で山を追われ、この再定住自治区に住んだものの、低地人に差別され、かなりの人が山に帰っているらしい。このあたりでもここ1軒だけがアエタだったのか？他には会わなかった。自宅出産で何故か「父親の介助で出産したが、胎盤が出てこない」と呼ばれた模様。朝になって「アウトドア出産だった」と聞いても私には何のことやら？？？そして、夕方の訪問時、

ついていった。ここに、若夫婦、親夫婦が住んでいる。私の感覚では 1 人でも狭いスペース。確かに壁にしている米袋が足りなくて、中から外の景色がよく見える。水田が広がっていて、いい景色ではありますが・・・今は雨季。昨夜も土砂崩れが心配になるほど雨が降り、風が吹いていた。そんな風雨吹きすさぶ場所に、新生児がいた。江里子さんが深夜着いたとき、赤ちゃんは着るものも無く「あなたの T シャツで良いから出さない！」と言って、産婦の T シャツで包んできた、とか。夕方行ったときにはそのままの状態なので、体をふいて、持参のおむつ、産着を着せタオルでくるむ。帰り道、その夫がついてくる。どうしたのかな？と試みてみると、江里子さんの片腕であるティナが「ダンボールをあげるからついてきなさい」と言ったらしい。ダンボールもここでは貴重な資材なのだ。

いよいよ寒村を去る 2 日前。奨学生ドナの田舎を訪問することになった。そこは、ピナツボ噴火で一面火山灰に覆われた地域。明け方、まだ暗いうちに宿舎を出て、バスに乗る。約 1 時間くらいで大きな市場のある町に着いた。雨がまた激しく降ってくる。ここでいつ出るともわからない（途中の学校へ通勤する先生たちのために必ず出る、というが）ジブニーを延々待つ。この間、市場でお土産代わりに、大きな魚や野菜を買う。待つ間、何人ものドナの知りあいと出会う。階級社会のフィリピンでは一口に階級と言っても、この市場だけでも 10 や 20 の階級があるらしい。それなのにドナはどんな階級の人も友達になれる不思議な存在だ。そうこうしているうちに 2 時間。そして判明しました（途中で土砂崩れがあり）今日は行けない！ 裏技で？何とか行けるが、1 泊しなければならぬ。となると、明日帰って来られるかどうか分からない！ 私は即決した。「今回は諦める」と。

後日、雨期が明けてから再訪問を果たしたシンディーさん（日本人ボランティアスタッフ）のブログ (http://blogs.yahoo.co.jp/k_uran1125) によると、そこはまさに桃源郷。被災地なのに??? 『周りは新緑と静寂に囲まれ自然の音しか聞こえてきません。一段と下界より気温が低く、澄んだ空気が身体に沁み渡り生き返るようです。・・・牛、水牛、豚、鶏、鳥、犬、猫、池の魚など、家畜が走り回り賑やかな庭。庭や山にはバナナやパパイヤなどの果物が豊富に実り、裏山には小川が流れ川のせせらぎが聞こえてきました』・・・17 年が経過し、勤勉なドナの父親はピナツボ火山噴火で禿山となった土地に一人で灌漑用水を作り現在の田畑を作り上げたそうです。石垣や土のうを積み上げ、川面より水位の高いところは山からパイプで水を引いてきます。川を堰き止め水田を造り高台には野菜を作ります。何億か費やされた日本の援助（被災地土壌回復）がさほどの効果なく、自国民が汗水流してここまでよみがえらせたとは・・・感無量です。しかし、近くに廃鉱があり、ドナの父親もかつて、労働者として働いていたそうです。廃坑になり、農業へ転移。・・・私の心配事が増えました。この廃坑の汚染土壌。そして、立派になった大地をいつか誰かに「返せ」といわれることを。



つづく

🍷 本と暮らす 🍷

(44) 『元気な一汁一菜』 小林ケンタロウ 著 文化出版局 刊
『おくぞの流 激早・簡単 ヘルシー野菜のおかず 271』
奥菌 寿子 著 講談社 刊

私がAC(注1)としてのステップを踏んだ回復作業を始めて、約4ヶ月が経ちました。ものごとには順番というのが大切であることが多いけれど、回復作業もまさにそうね。私が社会人になってからの18年間に3回もの「抑うつ」エピソードを繰り返して、3回目なんぞは本当に回復し始めるまで9年間も「ヘビの生殺し」状態であった訳がやっと判明しましたね。私の場合は、原家族ワーク(注2)がまったく不十分だった。というか、抱えている傷があまりにも大きすぎて、安全に回復作業をガイドしてくれる彼と出会うまでは、傷の記憶をすべて封印してきたのです。封印してきてくれたのは、私の無意識だけれどね。あんな記憶が、安全に、かつ適切にステップを踏んだ回復作業ができない環境で出てきていたら、私はとても社会生活を送ることは不可能になっていたでしょう……。

この間、私が、昨年・一昨年の自分の作業能力・判断力ではどうも考えられない質・量レベルの業務をこなしているのは、私自身がこれまで精神科援助職の「業界」で生きてきて培ったスキルと知識を総動員して回復作業をして、「うつ」が順調に回復しているからでもあるけれど、回復作業をしながら仕事で無茶をする私の危機を彼が文字どおり命がけでカバーしながらガイドしてくれているからです。とは言っても、現在の業務「量」というのは、やっそこ人さま並の業務「量」ではありますがね。もともと質はかなり濃厚だと思うけれどね。増加率は、凄いのよ。一昨年よりも5割増で新患さんを診察した昨年と比較しても、新患さんは200%以上！診察していますからね。新患さんが安定化するまでは時間も手間もかかるけれど、それも含めて診療全体、質は落とさずかなりスピードアップできているからね。

彼と出会えたのは、まさにGift(神様からの贈り物)です。生き延びてきて、本当に良かったよ！「生き延びる」なんて、大げさな表現だと思われる読者諸姉妹も多いでしょうが、これは実感です。ACはみんなみんな、文字どおり生き延びてきている……。ひとつだけ私の例をあげましょう。私が封印してきた記憶のなかには、私が遅くとも小学3年くらいの時期から「真綿で頸を絞められて窒息しそうな生活」のなかで慢性的に希死念慮(自殺したい気持ち)を抱きながらも「母親を『守る』ためには、今わたしが死んだりしてはいけない」という義務感だけで生きてきていた記憶もあるのです。

さて、現在、彼と一緒に暮らし始めています。ACとして、本当に驚異的に回復してきた彼ですが、人間にはみんな弱点があるさね。彼の場合は、学習障害、特に協調運動障害と算数障害ですね。アメリカに研修に行く時、人さまの3倍くらいの時間と労力をかけて自動車の運転免許をとった彼ですが、最初の研修先で友人の車を15分間運転させてもらったときに助手席に乗っていた友人から『A(彼のファーストネーム)、死にたくなかったら、君は今後一切運転を止めた方がいいね。僕は二度と君の運転する車には乗りたくないよ。ほとんど対向車がないこんな道でさえ、こんなに不注意で、操作も危ない運転をするんだからね』と言われたとか。それ、よ〜く分かるね。見ていると、本当に一度にひとつのことしかできないのよ。右手と左手でそれぞれ違う動作をしながらそれを協調させるとかは、同じ動作を繰り返し繰り返し練習して、やっところさ、人さまの3倍の時間かければできるかな、という感じ。楽器だとか球技などのスポーツなんか、てんでダメ。マラソンとか、単純なスポーツは大丈夫らしいけれどね。ましてや、お料理関係は、両手で違う動作をしながら、たいてい同時進行で2つの鍋とかに注意を注ぐわけですから。

そういう障害を抱えているから、一緒に暮らすまで、彼の食生活はめちゃくちゃだった。

例えば「ねえねえ、今日の夕食は何だった?」「うんとね……まみ(私のアノニマス・ネーム 注3)に叱られると思うけど……大福1個」「……」『今日はだいぶマシだったよん』『へえ〜、何食べたの?』『うんとね、コンビニの天ぷら弁当と飲むヨーグルト!』『……』という調子。他の点では申し分なくセルフケアしているのにね。で、彼に相当な恩義を受けている私としては「まあ、夕食

くらは、まともなものを食べさせてあげようじゃないか。野菜なんか、ほとんど食べている気配がないし」ということになったわけです。

とはいえ、私だって、つい最近“絶縁”するまでは平日は実家で夕食を食べさせてもらっていたので、たいしたレポートがあるわけなし、スキルもない。彼と一緒に生活することが判明してから、私が考えたことは「基本的に日本人のごはんは、美味しいごはんと美味しい一汁一菜であれば、いいのではないか？」ということです。まあ、そのレベルでなければ、私のスキルでは持続可能とはどうい思えなかったこともあります。

それです、『通販生活』から「業務用のガス炊飯器よりも美味しいご飯が炊ける炊飯器」というのを買った。炊飯器はもう15年くらい使っていて、かなり不満があったので、いいチャンスでした。ついでに「日本一 美味しいお米」というのを毎月3kgずつ定期購入することにして「白米ごはんよりも美味しくなる雑穀」というのも買った。・・・ここで「というの」という表現を使っているのは、本当にそんなに美味しいの？ という疑問がありつつも、「まあ、『通販生活』のお薦めだからね。試してみっかね」というニュアンスです。

それから、Amazonで検索して、今回紹介する本を買った。小林ケンタロウさんは、私がファンである小林カツ代さんの息子さんということもあるし、彼のレシピを新聞や雑誌でみていて「作り方簡単なのに、うまそうじゃん！」と思っていたので、著者で検索しました。そこで私のポリシーどおりの題名の本があったので、即、買った。もうひとつの本は、ケンタロウさんのレシピはちょっと野菜が足りないな〜、と感じたので、再度検索して買った。著書の数々に星5つの評価が煌いている奥菌さんという料理研究家のレシピは初めて見た。感激しましたね。一例をあげると、以前、いここに教えてもらった『じゃがいものミルク煮』なんか「同じ料理なのに、こんなに簡単に手早く作れるのかよ?!」って感じなんです。で、この2冊でいくつか試作してみて、これなら行けそう!! となって、彼が私の家に来た。というより、同居を始める日に合わせてスケジュールを立てたわけだけだけどね。

それから4週間・・・打率は95%以上(当社比 笑)です。まあ「よくぞ、食べてくれました。ありがとね(嬉し涙)」というシロモノが出てきた日(2品とも全滅、という日は幸いにしてなし)が2回ほどあったけれど、あとは我ながら美味しいオカズができたと思う。そして、私のような、ぶきつちょビギナーが作っても、たいてい30分~40分くらいで2品・3品出来ちゃうのよ!!! レシピって大事なんだね〜。お料理も順番が大切なのね♪ ちなみに、メニューの選択と後片付け(食器・調理器具洗い)・ごはん炊き・残りごはんの冷凍作業は彼が専任でしていますし、食材の買出しも、ほとんど彼。元夫のときと違って、鼻歌まじりで楽しそうに家事をするので、一緒にいて楽だね〜。こういう感じで、この頃、おうちごはんが楽しいから、残業がどんどん減っている。

さて。ごはんの件ですが・・・「日本一美味しいお米」が届くまえに彼が来たので、最初は「あきたこまち 新米」「茨城こしひかり 新米」を食べていたけれど、それでも十分に美味しいごはんだった。そして・・・「日本一美味しいお米」は本当に美味しかった!!

(真実=まみ)

注1: 依存症者などの親がいる機能不全家族で育ち、特有の“生きづらさ”を抱える人間

注2: 原家族(源家族ともいう) = 自分が生まれ育った家族の中で、どんな事態が起きていて、その中で自分がどんな「ルール」に適応して生き延びてきたか、どんな「メッセージ」を受け取ってきたか、をはっきりと見極める作業。「普通でない」原家族での「ルール」や「メッセージ」は、ACが「普通の社会」であたりまえに生きていくためにはまったく不適切であり、ACを縛りつけて、不健康な行動・思考パターンに馴らして立っているものである。しかし、この作業でその事実を同定しない限り、ACはそれを自覚することもできないし、ましてやその呪縛から解き放たれることもできない。ACの回復作業の核心ともいえる作業。

注3: AA(アルコール依存症者の自助グループ)やOA(摂食障害者の自助グループ)やGA(ギャンブル依存症者の自助グループ)のように「なんとかかんとか・アノニマス」という名称を持ち、回復のための12ステップを共通して持っている自助グループ(通常は12ステップグループとかアノニマス・グループと総称されているルーツはAA)では、アノニマス・ネームとって「自分が呼んでほしいニックネーム」をミーティングで名乗る。アノニマス・グループでは氏名・住所・年齢・職業などを一切明かす必要はない。親しくなったメンバー同士で本名や連絡先を教えあうことはある。

INFORMATION

○ 2009年1月28日 午後1時 『性差研究の作る道 DVのメカニズム』

場所:北海道大学人文社会科学総合教育研究棟1階W103室

パネリスト 小島妙子(弁護士) 小西聖子(武蔵野大教授) 近藤恵子(女のスペース・おん)

* 問い合わせは北大大学院文学研究科 瀬名波栄潤(706-4085)

○ 1月31日 15:30~18:15 『平和への道』—基地と軍隊のないまちをめざして

場所:かでの2.7 520 研修室

第1部:貧者の一灯(約65分)上映

第2部:井原 勝介さん(前岩国市長)講演

主催:カトリック札幌地区宣司評・社会委員会 問い合わせ:682-8317

入場料:一般1000円 小中生以下500円

○ 2月3日 18:30~21:00 『自治体の平和力をつくる』

井原勝介 & 森 啓 対論

場所:かでの2.7 1040 会議室 連絡先:谷 (664-0632)

○ キューバ映画祭 in サッポロ 2009

1月31日(土)→2月6日(金) 場所:ディノスシネマ(南郷通り1丁目)

チケット販売:さっぽろ自由学校「遊」、環境友好雑貨店「これからや」、各プレイガイド他

講演会:1月31日(土)11:20~・問い合わせ:さっぽろ自由学校「遊」252-6752

「我が身を吹き抜けたキューバ革命__世界戦後史の中の革命キューバ50年」

講師:太田昌国さん

○ 2月14日 13:00から4:30「無防備平和」—市民自治で9条を活かす

谷百合子・編 (高文研出版)出版記念会 場所:クリスチャンセンター 飲食:1000円

あとがき

再就職して3年と4ヶ月。お金は貯まった。旅をするための4か条はそれに加えて、気力体力、そして状況。母が亡くなって、憂いなく旅立てる状況なのに、今は気力が無い。何が寂しいのか…。深刻な介護の真っ最中に居る友人により添えない。ただ、ただ、うらやましい、と思える自分がある。経験しなければわからないこともある。今回のことで、そんな自分を発見した。……………一日一生、そう思って生きていきたい! タカハシ ヨシエ